



ふうせつりょうかい
「風雪凌開」

としゆつあん ちしゆつあん
人間国宝 斗出庵 荒川豊蔵氏

實相寺 花園会報

平成三十一年
三月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL.087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<http://www.jissouji.net>

第119号

今年是比较的暖冬で、高松では雪が降る日も殆どありませんでしたが、二月初旬に一日だけ、早朝一面の銀世界が広がっていました。凌とは「しのぐ」の意で、雪の積もる中、梅の蕾が雪を押しつけて花開く様子を表現した言葉です。早いものでもう三月ですが、厳しい冬を経たからこそ春の訪れが一層嬉しく感じることでしょう。人生もまた同じ。

グリーフワークかがわ

第38回 公開セミナー



2019年 3月3日(日) 13時~14時30分

会場 丸亀町カルチャールーム (裏に住所・地図・連絡問い合わせ先)

どなたでも参加できます 事前予約不要 参加費500円

講師	多田敏恭 ただとしやす (株)多田金館 代表取締役社長・GWK認定グリーフカウンセラー
テーマ	思ったより近くにある死別と喪失感 (喪失感は身の回りに溢れている。死別だけが喪失ではない)
内容	無くす、失くす、喪う、など喪失にも色々あります。 それに伴う喪失感も人それぞれです。同じ喪失でも、大きさ深さは、その時々により変わるものです。身近にある喪失感に気付くことで、自分と向き合い知る事が出来るかもしれません。一緒に考えてみましょう。

この事業は2018年度赤い羽根共同募金の助成金を受けています



一昨年より地元自治会の有志の方と一緒にはイタケ菌をクヌギの木に植えていたのですが、最近よくシイタケが育って、おかずの一品にも顔を出しています。

閑話休題

一昨年より地元自治会の有志の方と一緒にシイタケ菌をクヌギの木に植えていたのですが、最近よくシイタケが育って、おかずの一品にも顔を出しています。

各種お知らせ

グリーフワークかがわの講演会ご案内
3月3日(日) 午後1時~2時半
高松三越南の丸亀町カルチャールーム
(吉番館東側、一階がCOACH)の4階で死別と喪失感に関するセミナーがあります。講師は(株)多田会館社

長の多田敏恭氏。参加費は500円。どなたでもご参加出来ますので、お気軽にどうぞ。

「たよらないのが仏さま？」③
お釈迦様が実際にお説きになったといわれる原始経典『法句経』一八〇には、
「おのれこそ おのれのよるべ
おのれを措きて 誰によるべぞ
よくととのえし おのれにこそ
まことえがたき よるべをぞ獲ん」

(友松圓諦訳) という一節があります。

以前にも述べましたが、私達人間はこの世に誕生した瞬間から様々な属性を持つています。その属性は人生に大きな影響を与えるため、時に人は属性こそが自分そのものであるような錯覚をしがちです。身分の高い人は尊く、貧しい人はとるに足らない存在であるというような差別感覚は、今も昔も変わらない人間の陥

り易い迷妄の一つだといえるでしょう。

お釈迦様が生まれた時代のインドでは、「カースト制度」という身分制度によって、職業も結婚相手も厳しく制限されていた。いわば人間の価値や生き方が出自の属性によって決められていたのです。そういう社会の中、貴族の身分を捨てて出家されたお釈迦様は、悟りを開かれた時、「奇なる哉、奇なる哉、一切衆生悉く如来の智慧徳相を具有す」と仰いました。これは現代語に訳せば「不思議なことだ、全ての生きとし生けるものは皆平等に仏さまの尊い生命を具えている」ということであり、人は身分や属性によって資質が異なると考えられていた当時としては画期的なことでした。

「正しい人生観とはどのようなものですか？」と臨済禅師に尋ねた僧への答えもまた同様です。「お前達はこれまで常に善悪や正邪といった二元的属性の世界で一喜一憂する輪廻を繰り返してきたが、お釈迦様は教えを説かれた八十年の生涯を終えられても生死を去来した相がない。」と、臨済禅師はものごとくに固定化した属性があることを戒めています。
つまり無依の道人とは「私達は本来属性を持たない」という教えです。私達が生まれながらに頂いている生命には性別も年齢もありません。生命そのものに貧富の差や優劣はないのです。この生命のあり様が判れば、人間の価値や尊厳とは得たり失つたりするものではないと言っ

ことが判ります。「これが正しい人生観だ」と臨済禅師は仰ったのです。

古代インドには、四任期という考え方がありました。それは人生に必要なことを学ぶ学生期。家庭を持ち子供を育てる家住期。子育てを終え、世間から離れた静かな所で暮らす林住期。そして、様々な執着から離れ、聖地を巡礼する遊行期の四つです。後半の林住期と遊行期が定年後の生き方に相当すると思えますが、この二つに共通して求められているのは感覚を抑制することです。つまり生理的欲望などを抑え、心を調えなければ、見えてこないものがあることを示唆しています。この調えられた自分こそが本当にたよるべきよるべであり、仏なのです。